

# 国際平和推進事業

## 1 国際平和シンポジウムの開催

平成7年度（1995年度）から、核兵器廃絶をテーマに市民の平和意識の啓発を図ることを目的として、広島市、本財団及び朝日新聞社の共催により国際平和シンポジウムを開催しています。平成18年度（2006年度）からは広島・長崎の交互開催とし、令和4年度は長崎市で開催されたシンポジウムに出席しました。

期 日：令和4年7月30日（土）

会 場：長崎原爆資料館ホール

テーマ：核兵器廃絶への道 ～世界を「終わり」にさせないために～

内 容：①ダリル・キンボール氏（米シンクタンク・軍備管理協会会長）

②パネル討論

【パネリスト】

ダリル・キンボール氏（米シンクタンク・軍備管理協会会長）

キム スクヒョン  
金 淑賢氏（韓国国家安保戦略研究院責任研究委員）

ひかわ かずこ  
樋川 和子氏（大阪女学院大学教授）

よしだ ふみひこ  
吉田 文彦氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター長）

わだ まさこ  
和田 征子氏（日本原水爆被害者団体協議会事務局次長）

③特別トーク「MZ世代は被爆体験を世界にどう伝えるか」

つじ あさこ  
辻 愛沙子氏（株式会社 acra CEO、クリエイティブディレクター）

はやしだ みつひろ  
林田 光弘氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員）

## 2 国連軍縮フェローズの受入れ

国連が軍縮の専門家を育成する目的で昭和54年度（1979年度）から実施している「国連軍縮フェローシップ・プログラム」の研修生（フェローズ）に対して、広島平和記念資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、原爆ドーム等の見学に加え、被爆体験証言の聴講などの研修プログラムを提供しています。

本財団では、昭和58年度（1983年度）から受入れを始め、これまでにおよそ1,000人のフェローズが広島で学んでいます。令和4年度は、24か国の若手外交官等26人が参加しました。今回の研修では、被爆体験講話や被爆体験記朗読会の聴講、広島平和記念資料館、平和記念公園の見学、原爆死没者慰霊碑への参拝・献花等を行いました。



フェローズ一行（原爆死没者慰霊碑献花前）

### 3 中国人民平和軍縮協会との交流

昭和 63 年度（1988 年度）に中国人民平和軍縮協会（平縮会）と交流を始めて以来、相互に訪問し、交流を続けています。平縮会は、昭和 60 年（1985 年）6 月に設立された中国最大の民間平和団体で、平成 14 年（2002 年）には国連 NGO に登録されています。

令和 4 年度は、訪中団を派遣し、被爆の実相とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝える予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

### 4 海外へのオンライン被爆体験証言

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムを利用した被爆体験証言を行っています。令和 4 年度は、5 か国 9 都市とライブで繋がり、15 回の被爆体験証言を行いました。

### 5 国外原爆写真展用資料の提供

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行っています。

#### 令和 4 年度の貸出・提供実績

##### ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター

（単位：点、か国・地域）

区 分	点 数	国・地域数
日本語	1	1
英語*	4	7
ハングル	1	1
中国語	1	1
ドイツ語*	1	3
スペイン語	2	2
計	10	15

※英語 4 点及びドイツ語 1 点については、それぞれ 7 か国、3 か国で巡回展示あり

##### 映像資料等

（単位：点、か国・地域）

貸出・提供資料	点 数	国・地域数
映像資料（DVD）*	19	23
ポスター用データ等	8	8
計	27	31

※映像資料（DVD）19 点のうち 2 点については、それぞれ 3 か国で視聴あり

#### 〔お申込み〕

広島平和記念資料館 啓発課まで

電話（082）541 - 5544（受付時間 9 時～17 時）

〔休館日（12 月 30 日及び 31 日）は受け付けておりません〕

## 6 ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、広島市と長崎市は共同で、海外において「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催しています。

### (1) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展

令和4年度は、ポーランドのグダンスク市とオーストラリアのキャンベラにおいて開催しました。

グダンスク市では、動員学徒として作業中に被爆し、犠牲となった女学生のブラウスなどの遺品や、黒焦げになった弁当箱のレプリカなど、実物資料20点のほか、広島・長崎の被爆の実相を説明したパネル31点などを展示し、開会行事では、滝川卓男館長たきがわたくおが現地で挨拶を行いました。

キャンベラでは、広島・長崎の被爆の実相を説明したパネル31点などを展示し、開会行事では、被爆体験証言者かじもとよしこの梶本淑子さんがオンラインで被爆体験講話を実施しました。

#### ● グダンスク市

期 間 令和4年10月14日（金）～令和4年12月31日（土）

会 場 グダンスク第二次世界大戦博物館

内 容 被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験記の閲覧等

入場者 約8,400人



原爆・平和展の様子(グダンスク市)

#### ● キャンベラ市

期 間 令和4年9月6日（火）～令和4年11月30日（水）

会 場 オーストラリア国立大学

内 容 被爆の実相を伝える写真パネルの展示、被爆体験講話、被爆体験記の閲覧等

入場者 約1,370人



梶本淑子かじもとよしこさんによるオンラインでの被爆体験証言の様子

### (2) NPT再検討会議に合わせた原爆展

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、延期されたNPT再検会議に合わせ、日本原水爆被害者団体協議会との共催により、米国のニューヨーク市で原爆展を開催しました。

期 間 令和4年8月5日（金）～令和4年9月2日（金）

場 所 国連本部1階ロビー

内 容 被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示等

## 7 「広島・長崎講座」設置協力プログラム

被爆体験を学問的なレベルで若い世代に継承するため、国内外の大学に「広島・長崎講座」の開設を呼び掛けており、新たに講座を開設する大学に対し、学識者や被爆証言者等の派遣や教材の提供を行っています。令和5年3月末までに次のとおり国内53、海外24の計77大学が「広島・長崎講座」を開設しています。

(国内) 東北芸術工科大学、中央学院大学、東京大学、東京外国語大学、恵泉女学園大学、国際基督教大学、成蹊大学、大東文化大学、東京経済大学、東京電機大学、明治学院大学、和光大学、早稲田大学、新潟大学、敬和学園大学、富山大学、金沢大学、中部大学、名古屋学院大学、三重大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都精華大学、京都芸術大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学、大阪大学、関西学院大学、奈良県立大学、帝塚山大学、広島大学、広島市立大学、福山市立大学、エリザベト音楽大学、日本赤十字広島看護大学、比治山大学、広島経済大学、広島国際大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島都市学園大学、広島文化学園大学、広島文教大学、愛媛大学、九州大学、北九州市立大学、長崎大学、長崎県立大学、鎮西学院大学、長崎総合科学大学、熊本大学、大分県立芸術文化短期大学、鹿児島大学

(海外) ラspanティ教育大学（アルゼンチン）、BHT ベルリン応用科学大学（ドイツ）、マレーシア科学大学、マラヤ大学（マレーシア）、慶北国立大学校人文大学（韓国）、ウクライナ国立キーウ工科大学（ウクライナ）、アメリカン大学、ボーリング・グリーン州立大学、カリフォルニア州立大学サクラメント校、カールトン大学、セントラルコネティカット州立大学、フィラデルフィア・コミュニティ・カレッジ、デュポール大学、イリノイ・ウェズリアン大学、インディアナ大学-パデュー大学インディアナポリス校、マサチューセッツ工科大学、ミネソタ州立大学ムーアヘッド校、マウントユニオン大学、ニュージャージー州立ラトガース大学、タフツ大学、アラバマ大学、シカゴ大学、ハワイ大学マノア校、インディアナポリス大学（以上アメリカ）

## 8 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修

広島市では、長崎市と共同で、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンの国連施設に、被爆資料や写真パネルなどで構成する常設の原爆展を開設しています。国際政治や国際世論に大きな影響を及ぼす場所で開設している原爆展を通して、より効果的に被爆の実相を伝えるためには、案内役のガイドやガイドツアー担当職員に被爆の実相を共有してもらうことが不可欠です。このため、広島平和記念資料館では、国連3施設



本川小平和資料館で解説を聞く参加者

の見学ツアーガイドを広島に招へいし、被爆の実相について学んでもらう「国連見学ツアーガイドのヒロシマ研修」を平成 29 年度（2017 年度）から実施しています。6 回目となる令和 4 年度の研修は、3 年ぶりに国連ツアーガイド等 6 人の広島への招へいが実現し、被爆の実相に関する現地研修を、昨年 11 月 28 日から 12 月 2 日までの 5 日間、実施しました。

実施日 令和 4 年 11 月 28 日（月）～12 月 2 日（金）

- 内 容
- ① 被爆体験講話の聴講
  - ② 広島平和記念資料館、平和記念公園及び原爆ドームの見学
  - ③ 被爆の実相等の講義の受講
  - ④ 本川小<sup>ほんかわ</sup>・袋町小平和資料館<sup>ふくろまち</sup>の見学
  - ⑤ 国連各施設によるプレゼンテーション 等

受講者からは、「実際に広島に来たことで、原爆による被害をより鮮明に感じ取ることができた」、「被爆者の方からのメッセージを原動力として、今後も核兵器の問題に取り組みたい」、「広島での経験をツアーに反映させ、核兵器廃絶の必要性をよりリアリティを伴って訴えたい」との感想が寄せられました。今後もこの事業を中心に、国連各施設における原爆被害に関する展示の充実や、各施設で行われるツアーでの被爆・核兵器廃絶に関する解説内容の拡充を図り、国際社会での「ヒロシマの心」の発信力の強化に努めていきます。

## 9 平和首長会議の運営

平和首長会議は、世界の都市が国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶と世界恒久平和への道を切り開こうという広島・長崎両市の呼び掛けに賛同する都市（自治体）で構成する国連経済社会理事会登録 NGO です。

令和 4 年度は 176 都市が新たに加盟し、地域別では、アジア 3 都市、アフリカ 1 都市、ヨーロッパ 160 都市、北アメリカ 6 都市、ラテンアメリカ・カリブ海地域 6 都市でした（オセアニアからの加盟はなし）。

加盟都市の連帯の輪を更に広げるため、それぞれの加盟都市の平和の取組などを紹介する月刊メールマガジン“Mayors for Peace News Flash”の発行のほか、平和首長会議ホームページ（<https://www.mayorsforpeace.org/>）やソーシャルメディアによる発信活動の充実などに取り組んでいます。



平和首長会議ホームページ

## ○ 地域別平和首長会議加盟都市数

(令和5年9月1日現在)

地域名	加盟都市数
アジア	39 か国・地域 3,306 都市
オセアニア	9 か国・地域 136 都市
アフリカ	49 か国・地域 438 都市
ヨーロッパ	41 か国・地域 3,325 都市
北アメリカ	3 か国・地域 340 都市
ラテンアメリカ・カリブ海地域	25 か国・地域 742 都市
計	166 か国・地域 8,287 都市

### 10 平和首長会議の活動展開

平和首長会議では、「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」（略称：PX ビジョン）の三つの目標の下で、併せて策定した 2025 年までの行動計画に掲げる取組を進め、平和を構築していくための世界的な活動展開を図っています。

令和4年度は、第10回NPT再検討会議や核兵器禁止条約第1回締約国会議のほか、平和首長会議ヨーロッパ支部会議にも出席するなど、平和を構築していくための世界的な活動展開を図りました。また、第10回平和首長会議総会を開催し、核兵器のない平和な未来の創造に向け、加盟都市が今後の取組について議論するとともに、平和首長会議設立40周年を記念する行事を行いました。

#### (1) 第10回NPT再検討会議への出席

令和4年8月、米国・ニューヨーク市で開催された第10回NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議へ代表団を派遣し、各国政府関係者等に、核軍縮・不拡散措置を進展させるための合意文書の採択や、核兵器禁止条約第1回締約国会議の最終文書を尊重すること等を要請するとともに、平和首長会議の取組に対する理解と協力を求めました。

#### (2) 核兵器禁止条約第1回締約国会議への出席

令和4年6月、オーストリア・ウィーン市で開催された核兵器禁止条約第1回締約国会議へ代表団を派遣し、国連・各国政府関係者等に、非人道的な結末をもたらす核兵器に対する強い懸念を訴えるとともに、核兵器廃絶に向けた議論を前進させるための努力を求めました。

また、平和首長会議及び ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の共同サイドイベントや、平和首長会議原爆ポスター展を開催し、核兵器のない平和な



核兵器禁止条約第1回締約国会議（一般討論）での松井市長によるスピーチ

世界の実現に向けた気運を醸成しました。

### （３）「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開

平和首長会議では、「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動に取り組んでいます。

集まった署名を取りまとめ、核軍縮に関する国際会議への出席等の機会を捉えて、国連関係者に届けることにしています。令和４年度は、核兵器禁止条約第１回締約国会議への出席時に、中満国連事務次長兼軍縮担当上級代表<sup>なかみつ</sup>へ署名の目録を手渡しました。



署名の目録を受け取る中満上級代表(右)

### （４）平和首長会議加盟都市等への被爆樹木の種・苗木の配付

平和首長会議では、希望する加盟都市に被爆に耐えて現在も生き続けるヒロシマ・ナガサキの被爆樹木の種や二世の苗木を配付しており、令和４年度は、国内の１０都市、海外５か国の１０都市に配付しました。

配付された被爆樹木の種や二世の苗木は、多くの市民が訪れる場所に植樹され、平和の象徴として大切に育てられるとともに、樹木を介して市民の平和意識を醸成するための取組に活用されています。

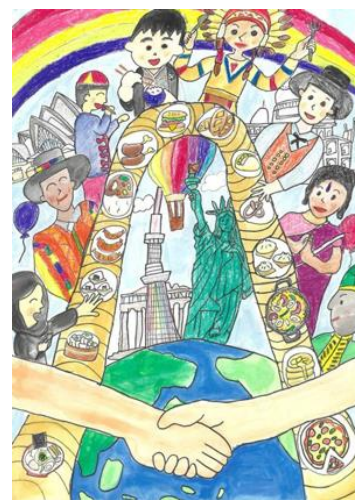
### （５）次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発

平和首長会議では、加盟都市による市民の意識啓発に向けた取組の充実を目的に、各都市において実施されている「平和を希求する心を育てる取組」の好事例を収集し、メールマガジンやホームページに掲載しており、令和４年度までに、国内外合わせて８０自治体の１４３件の取組を紹介しています。

また、加盟都市における平和教育の充実を図ることを目的として、全加盟都市の６歳から１５歳の子どもたちを対象とした「“平和なまち” 絵画コンテスト」を実施しました。

５回目となる令和４年度のコンテストでは、世界１５か国８６都市で８,６４４作品の応募がありました。６歳から１０歳と１１歳から１５歳の２部門でそれぞれ最優秀賞１点、優秀賞２点、入選３点を選定し、各部門の最優秀賞作品から、愛知県大府市の兼松玖河さん<sup>かねまつ くるが</sup>（１０歳）の作品を平和首長会議会長賞に選定しました。

平和教育の重要性についての認識を広めるため、この作品をデザインにしたクリアファイルを作成し、様々な取組で活用しています。



平和首長会議会長賞受賞作品

## （6）平和首長会議地域会議等への出席

令和4年6月、オーストリア・ウィーン市で開催された、ヨーロッパの平和首長会議役員都市等11都市が参加するヨーロッパ支部会議へ出席し、活動報告や意見交換を行いました。

また、本財団専門委員が参加した第90回全米市長会議年次総会において、核兵器廃絶と平和首長会議の取組を支持する「平和及び共通の安全保障への道を切り開くための決議」が満場一致で採択されました。全米市長会議は2006年以降毎年、同様の決議文を採択しており、今回で17年連続の採択となりました。

### 1.1 平和首長会議インターンシップ

平和首長会議の国内外の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図りました。令和4年度は海外加盟都市から1名、国内加盟都市から17名を招へいしました。

### 1.2 平和教育ウェビナーの開催

平和首長会議の国内加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し合い、意見交換するオンラインセミナーを開催しました。

ウェビナーでは、8都市・団体から13人の青少年が参加し、それぞれの平和活動や平和への思いについて発表するとともに、意見交換を行いました。

ウェビナーの様子はインターネットで同時配信するとともに、後日、配信した動画を平和首長会議ウェブサイトで公開し、多くの方々に視聴していただきました。



平和教育ウェビナー

### 1.3 第10回平和首長会議総会の開催

令和4年10月、広島市で第10回平和首長会議総会を開催し、核兵器のない平和な未来の創造に向け、加盟都市が今後の取組について議論するとともに、平和首長会議設立40周年を記念する行事を行いました。総会では、若者の育成などを通じて「平和文化」を市民社会に深く根付かせることに一層注力していくことや、国際情勢の緊張を緩和し、核兵器使用のリスクを低減させるために国連・各国政府に求める6つの方策などを盛り込んだヒロシマアピールを採択することができました。



ヒロシマアピールの採択



◇ 核実験に対する広島市の抗議書簡・抗議電回数表（暦年別）

令和5年3月末現在

区分 年	米 国		ロシア		フランス		中 国		英 国		インド		パキスタン		北朝鮮		計	
	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計
1968	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
1969	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
1970	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
1971	1	2	0	0	3	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	10
1972	2	4	1	1	1	6	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	6	16
1973	0	4	1	2	7	13	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	9	25
1974	3	7	4	6	9	22	1	7	1	1	1	1	0	0	0	0	19	44
1975	13	20	5	11	2	24	1	8	0	1	0	1	0	0	0	0	21	65
1976	10	30	9	20	3	27	4	12	1	2	0	1	0	0	0	0	27	92
1977	11	41	9	29	2	29	1	13	0	2	0	1	0	0	0	0	23	115
1978	9	50	21	50	2	31	3	16	1	3	0	1	0	0	0	0	36	151
1979	12	62	23	73	1	32	0	16	1	4	0	1	0	0	0	0	37	188
1980	14	76	14	87	6	38	1	17	3	7	0	1	0	0	0	0	38	226
1981	9	85	8	95	3	41	0	17	0	7	0	1	0	0	0	0	20	246
1982	11	96	9	104	5	46	0	17	1	8	0	1	0	0	0	0	26	272
1983	12	108	12	116	7	53	1	18	1	9	0	1	0	0	0	0	33	305
1984	13	121	16	132	7	60	1	19	2	11	0	1	0	0	0	0	39	344
1985	14	135	6	138	8	68	0	19	1	12	0	1	0	0	0	0	29	373
1986	13	148	0	138	7	75	0	19	1	13	0	1	0	0	0	0	21	394
1987	14	162	20	158	8	83	1	20	1	14	0	1	0	0	0	0	44	438
1988	10	172	15	173	8	91	1	21	0	14	0	1	0	0	0	0	34	472
1989	11	183	7	180	8	99	0	21	1	15	0	1	0	0	0	0	27	499
1990	7	190	1	181	6	105	0	21	1	16	0	1	0	0	0	0	15	514
1991	6	196	0	181	6	111	0	21	1	17	0	1	0	0	0	0	13	527
1992	6	202	0	181	0	111	2	23	0	17	0	1	0	0	0	0	8	535
1993	0	202	0	181	0	111	1	24	0	17	0	1	0	0	0	0	1	536
1994	0	202	0	181	0	111	2	26	0	17	0	1	0	0	0	0	2	538

1995	0	202	0	181	6	117	2	28	0	17	0	1	0	0	0	0	8	546
1996	0	202	0	181	1	118	2	30	0	17	0	1	0	0	0	0	3	549
1997	5	207	1	182	0	118	0	30	0	17	0	1	0	0	0	6	555	
1998	5	212	2	184	0	118	0	30	0	17	2	3	2	2	0	11	566	
1999	4	216	0	184	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	4	570	
2000	5	221	3	187	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	8	578	
2001	2	223	0	187	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	2	580	
2002	4	227	0	187	0	118	0	30	1	18	0	3	0	2	0	5	585	
2003	1	228	0	187	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	1	586	
2004	1	229	1	188	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	2	588	
2005	0	229	0	188	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	0	588	
2006	2	231	0	188	0	118	0	30	1	19	0	3	0	2	2	5	593	
2007	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	2	593	
2008	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	2	593	
2009	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	3	594	
2010	1	232	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	595	
2011	2	234	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	597	
2012	5	239	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	602	
2013	3	242	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	4	606	
2014	1	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	4	607	
2015	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	4	607	
2016	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	2	6	609	
2017	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	7	610	
2018	1	244	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	611	
2019	1	245	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	612	
2020	0	245	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	612	
2021	1	246	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	613	
2022	1	247	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	614	
計	247		188		118		30		19		3		2		7		614	

(注) ①ロシアの通算回数には、旧ソ連の181回を含みます。

②米国に対する抗議には、核実験の予告に対する1回（昭和59年（1984年）5月31日分）、臨

界前核実験実施表明に対する 1 回（平成 9 年（1997 年）4 月 10 日分）及び臨界前核実験実施予告に対する 5 回（平成 9 年 6 月 28 日、平成 9 年 8 月 28 日、平成 10 年（1998 年）3 月 6 日、平成 10 年 9 月 4 日、平成 11 年（1999 年）9 月 29 日分）を含みます。

③フランスに対する抗議には、核実験の再開表明に対する 1 回（平成 7 年（1995 年）6 月 15 日分）を含みます。

④北朝鮮に対する抗議には、核実験の予告に対する 1 回（平成 18 年（2006 年）10 月 5 日分）を含みます。

⑤平成 18 年のイギリスの臨界前核実験は、米国と共同で行われました。